

平成 29 年度 カムイワッカ地区の利用状況について

平成 11 年度以降カムイワッカ地区では、自然環境の保全と快適な利用環境の確保を目的とした車両規制が継続して行われている。車両規制の期間や方法、利用可能なエリアは外的な社会環境の変化や道道知床公園線（知床五湖からカムイワッカ間）の整備工事の工程によって度々変更している。過去 6 年間は、車両規制期間を 8 月と 9 月の 2 回に分けて設定したが、本年度は 8 月 1 日から 25 日までのみとし、9 月は車両規制を行わなかった。

また、昨年度は車両規制期間中にスカイバス（オープントップ型のバス）が、道の駅うとろ・シリエトクと知床五湖の間で運行された（7 月 16 日から 8 月 25 日まで）が、本年度は運行しなかった。

1 カムイワッカ地区に関する全体日程

本年度の車両規制及びカムイワッカ地区の利用に関する全体日程を図 1 に示す。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体日程	6/1		8/1	8/25		11/2
	自由利用期		車両規制期	自由利用期		
	6/16	道路特例使用			9/24	
カムイワッカ地区監視員配置		7/15	9/18			
知床自然センター警備員配置			8/9	8/16		
知床五湖警備員配置			8/1	8/25		

図 1 車両規制及びカムイワッカ地区の利用に関する全体日程

2 現地状況の把握

対象期間は、知床五湖からカムイワッカへ至る道道の利用開始日である 6 月 1 日から利用最終日である 11 月 2 日までとした。特に、カムイワッカ地区に監視員が配置され、現地状況を正確に把握できた 7 月 15 日から 9 月 18 日を中心に扱った。車両規制期間中には、監視員から 1 日 2 回の定時連絡を受け、現地の異状の有無を確認したほか、トラブル等の発生状況や現地の状況については、監視員および関係機関からの報告をとりまとめた。

2-1 対象期間中の混雑・トラブル発生状況について

1) 負傷者の発生状況

負傷者の発生件数は 1 件で、湯の沢へ上がる道路寄りの登り坂で女性（20 才）が滑って肘に擦過傷を負ったため、現地監視員が消毒を施した（7 月 16 日）。

2) 道路の供用状況

本年度は車両規制期間中の悪天候による道路閉鎖はなかった。(昨年度は終日閉鎖が 5 日、途中閉鎖が 4 日発生している。)

自由利用期間中には、落石・倒木・凍結の恐れによる道路閉鎖が計 5 回発生した。

3) 一の滝上部の利用禁止区間について

昨年度までと同様に、一の滝上部の規制ラインに監視員が配置されたが、規制ラインを突破した湯の沢利用者は、監視員配置期間中には確認されなかった。(昨年度は 0 人、一昨年度は 13 人の規制ライン突破が報告されている。)

4) 大雨・増水時の対応について

9 月 14 日に前日からの雨のため若干の増水が確認されたが、立ち入りを制限したり規制したりするまでには至らなかった。

5) ヒグマの出没状況

道道利用可能期間中（6 月 1 日から 11 月 2 日まで）のヒグマの出没状況は、道道知床公園線沿いが 58 件、カムイワッカ地区が 18 件、硫黄山登山道が 20 件となっている（図 2）。

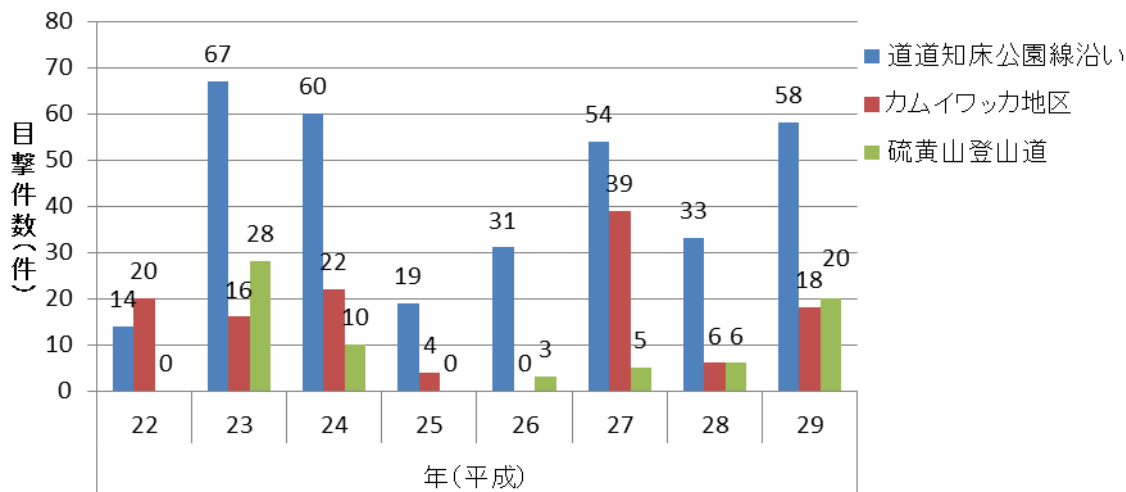


図 2 カムイワッカ地区とその周辺でのヒグマ目撃件数

6) 硫黄山登山者の遭難事故について

本年度は硫黄山登山者（知床連山縦走者を含む）の遭難事故等による救助要請は報告されていない。

7) その他トラブル

トラブル等については、犬を散歩させていた事例、登山者の最終バス乗り遅れなど、6 件が報告された（表 1）。

表 1 カムイワッカ地区でのトラブル等

日付	トラブル	内容
6月6日	犬の散歩	カムイワッカ湯の滝の駐車場において、犬を連れて歩いている利用者がいたため、ヒグマの生息地であること、それに伴うリスクを説明し、犬の散歩はウトロ市街地など電気柵で囲われているエリアで行うことを勧めた。
8月5日	最終バス乗り遅れ	登山者から、最終バスに間に合いそうにないとタクシー会社に迎えを要請する電話が入る。タクシー会社から相談を受けた知床財団職員が現地に出向き、外国人男性1名と日本人女性1名の計2名を收容、知床自然センターで事情を聞き取ったのち、ウトロまで送り届けた。
9月6日	登山者車両の長時間残置	登山者の車両4台が沢利用者用駐車スペースに朝（監視員が配置につく前）から駐車されており、昼近くになっても移動しなかった。
9月17日	TV局取材班取り残し	ルシャ取材のため自らの調達した車両で現地入りしていたTV局の取材班が、ゲート閉鎖時刻（18:00）までにゲートを通過しなかったため取り残される形となった。
10月21日	規制線以奥の利用	足元の装備やヘルメットを装着していることなどから、沢登りをしてきたと思われる集団が、規制線以奥から下りてきた。どこまで行ったかなどは不明。
複数回	道路脇の長時間駐車	イダシュベツ川の道路脇、駐車禁止を示す紅白の鉄の規制工作物が設置されているあたりに、地元ガイド事業所の車両が一定の長時間にわたり駐車しているのを複数回確認した。一般の利用者から「ガイド車両はよいのか」という質問を受けるなどした。

2-2 車両規制期間における混雑・トラブル発生状況について

1) シャトルバス混雑状況

シャトルバス運行会社である斜里バス株式会社および監視員の日報等を参考に、車両規制期間中の混雑状況を把握した。満席による乗車不可および臨時便の運行は第 1 便と第 2 便で数回見受けられた。

2) 湯の沢の混雑状況

監視員等の情報から、湯の沢の混雑状況を把握した。一時的に湯の沢内の利用者が多くなることはあったが、沢内に立ち入ることができなくなる程の混雑状況になることはなかった。

2-3 自由利用期における混雑・トラブルの発生状況について

1) 湯の沢駐車帯の混雑状況

現地監視員からの報告を基に、自由利用期における湯の沢駐車帯の駐車台数が 20 台を超えた状態を混雑状態と定義し、表 2 に示す。海の日を含む三連休の初日（7 月 15 日）および中日（7 月 16 日）は混雑が予想されたため、関係行政機関などから誘導員を配置した。一方で、敬老の日を含む三連休の中日である 9 月 17 日には誘導員を配置しなかったが、今シーズン最多の駐車待ち車両が確認されている。

表 2 自由利用期間における湯の沢駐車帯の混雑状況

日付	曜	最大駐車台数	混雑した時間帯	駐車待機車両の有無(○・×)	備考
7月15日	土	25	14:00	○	午後、誘導員3名配置
7月16日	日	26	11:00	×	午前、誘導員4名配置 午後、誘導員2名配置
7月17日	月	26	11:00～11:30	○	海の日
7月20日	木	21	11:00	×	
7月29日	土	23	10:50	×	
7月30日	日	29	10:30～11:35	○	
7月31日	月	24	9:30～11:30	○	
8月26日	土	25	14:50～15:00	×	
9月6日	水	22	14:15	×	
9月16日	土	23	14:10	×	
9月17日	日	28	10:30～14:00	○	敬老の日を含む3連休の中日 誘導員の配置なし 10～15台が常に駐車待ちの状態

2) 道道知床公園線における交通事故等の発生状況

道道知床公園線での交通事故は、バイクによるもの 1 件、レンタカーによるもの 3 件、自家用車によるもの 1 件の計 5 件の報告が警察に寄せられた。いずれも物損事故であった。

3. 車両規制に関する利用状況の結果

3-1 シャトルバス乗車人数について

車両規制を行った 25 日間全体を通して、本年度のシャトルバス乗車人数（知床五湖往復も含む）は 12,075 人（昨年度は 9,229 人）であった。昨年度は、8 月と 9 月の 2 期に分けて車両規制期間を設定した平成 23 年度からの乗車人数としては最少を記録したが、本年度

は 8 月の 25 日間のみにもかかわらず、全体としては平成 23 年度から昨年度までの平均を上回る乗車人数となった。日ごとのシャトルバス乗車人数の推移を、過去 2 年分とともに図 3 に示す。本年度は 8 月 15 日（火）に期間中最多乗車人数である 975 人を記録した（昨年度最大乗車人数は 8 月 12 日（金）の 1,090 人）。本年度の日平均乗車人数は 483 人であった（昨年度同期間（8 月 1 日から 25 日まで）の平均乗車人数は 332 人）。本年度はお盆期間に悪天候による道路閉鎖等がなく、安定した運行ができた。

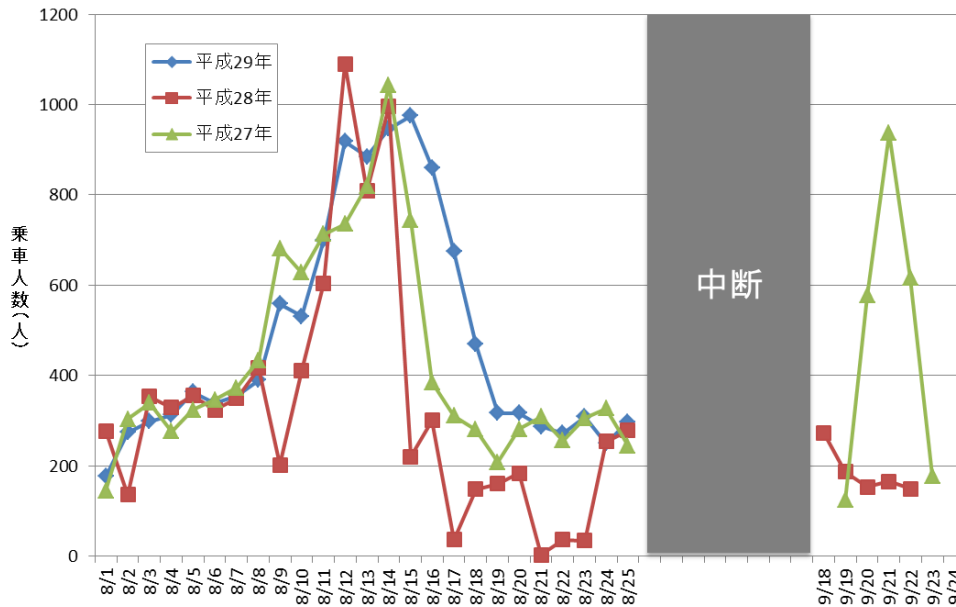


図 3 過去 3 年間のシャトルバス乗車人数の推移

3-2 各駐車場における駐車台数について

車両規制期間中の警備員配置期間における日ごとの各駐車場の駐車台数を図 4 に示す。

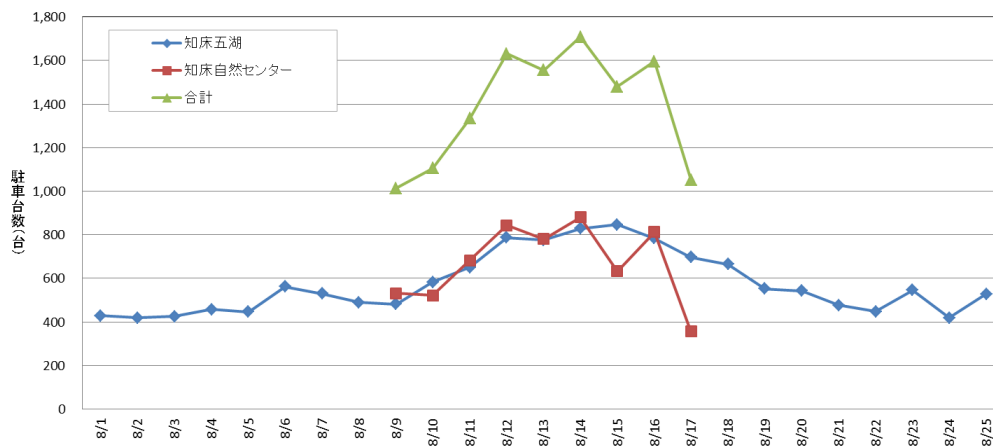


図 4 各駐車場の駐車台数

3-4 シャトルバス乗車人数と駐車台数との関係について

本年度のシャトルバス乗車人数および各駐車場の駐車台数を過年度と比較するため、毎年度それぞれの数値が報告されている期間である 8 月 10 日から 8 月 16 日における各項目の推移を図 5 に示す。同期間内での各駐車場の駐車台数は例年並みであった。

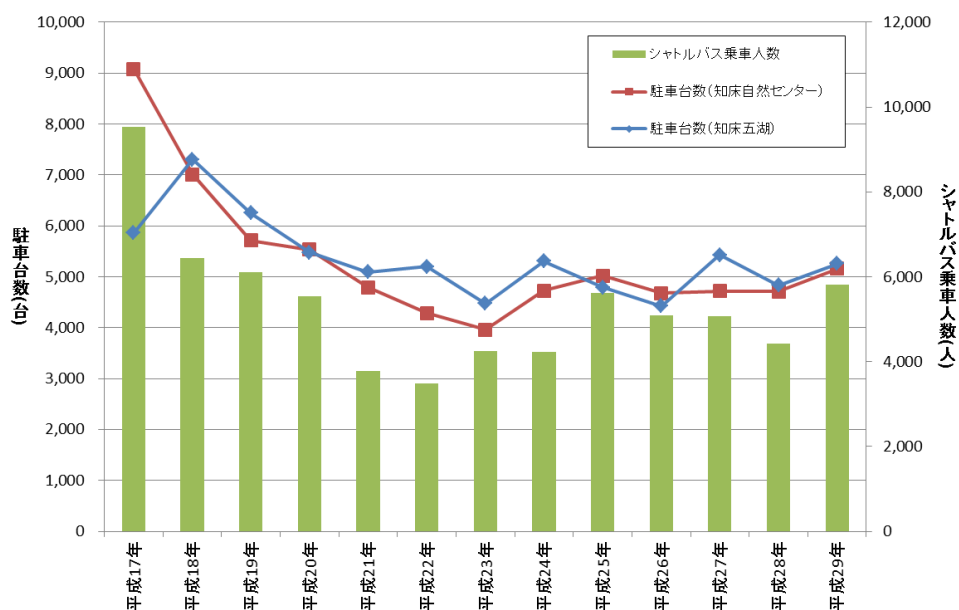


図 5 同一期間内での各駐車場の駐車台数とシャトルバス乗車人数の推移（8 月 10 日から 8 月 16 日）